

平成 30 年度第 1 回「三重県 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連 事業推進本部」会議概要

日 時：平成 30 年 5 月 14 日（月）10:15～10:27

場 所：県庁 3F プレゼンテーションルーム

1 「三重県 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業推進本部」 設置要綱の一部改正

事務局から、資料 1 により説明

2 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会にかかる最近の主な動き、平 成 30 年度取組予定

部局長から資料 2、資料 3 により説明

村木国体・全国障害者スポーツ大会局長

- ・事前キャンプ地誘致については、カナダのアーティスティックスイミングチームと協定締結に向けて準備していく。新たなキャンプ地誘致については、競技団体や市町から情報収集していく。

- ・フラッグツアーについては、9 月 1 日から約 1 か月間、県内で実施されることになり、県内地域を巡回する。

- ・聖火リレーについては、三重県で 2 日間実施されることから、三重県実行委員会の立ち上げの準備を進めている。実行委員会では聖火リレーのコースやランナーを検討していく。

- ・国への提言については、スポーツによる地域活性化への支援等の要望活動を実施する。

岡村農林水産部長

- ・資料 2-1 東京オリパラ競技大会で利用が見込まれる宿泊施設のレストラン等として、356 ホテル内の 903 店舗を対象にマーケティング調査を実施した。

- ・三重県産農林水産品の使用状況については、使用しているレストラン等が約 32%、その理由として「他と差別化したいから」が 100%、「品質がよいから」が約 71%となっている。

・三重県産農林水産品を増やしたいレストラン等の割合が約 17%あり、使用したい三重県産農林水産品として「ストーリーのある食材・食品」が約 85%、「GAP 等の第三者認証を取得した食材・食品」が約 33%となっている。

・三重県フェアの開催を希望しているレストラン等の割合は約 50%となっている。

・今回の調査結果を踏まえ、レストラン等をターゲットとしたプロモーションをブラッシュアップするとともに、三重県フェアの開催を希望しているレストラン等を中心に個別にプロモーションを行うなど、三重県産農林水産品の使用拡大につなげていきたい。

・資料 3 平成 30 年度の取組予定として、農林水産部では 8 つの事業に取り組んでおり、具体的には

- ・情報発信力の強いラグジュアリーホテルに対するプロモーション活動の展開
- ・ケータリング事業者に向けたレセプションの開催
- ・GAP の取得拡大を図るための取組

などを進めていく。

【質疑応答】

(西城戦略企画部長)

- ・マーケティング調査の結果について、どのような感触をもっているか。

(岡村農林水産部長)

・今回の調査は、興味を示したレストラン等にプロモーションをしていくための調査だと考えており、興味を示しているレストラン等にアプローチしていきたい。

3 国への提言・提案

事務局から資料 4 により説明

4 今後の予定

推進本部会議は、今後、9 月、平成 30 年 3 月に開催する予定を事務局から説明

5 知事コメント

・今日 (5 月 14 日) で東京オリンピックまであと 802 日、東京パラリンピックまで 834 日。東京オリパラに向けて、キャンプ地誘致が 1 つでも多くの実現するよう、取り組んでほしい。

・フラッグツアーについては、インターハイと福井国体の間の良い時期にあり、市町、関係する方々と共に盛り上げてほしい。

・マーケティング調査は、161 店舗から回答のあった有意義な調査であり、回答内容についても示唆に富む、前向きなものであった。この調査結果をもとに、県庁だけが営業を行うのではなく、東京オリパラ三重県農林水産協議会等の関係者と共有し、波状攻撃で営業してほしい。

・東京オリパラがゴールではなく、きっかけ、チャンスであり、東京オリパラを通じて三重の活性化につながるよう、積極的に取り組んでほしい。

以 上